

導入

皆さんはどのような不安と戦いながらお過ごしですか？わたしたちの周りには不安になる出来事が次々と起こっています。五十年に一度、百年に一度、千年に一度と言われる出来事が世界中で起こっています。今まで誰も経験したことのない状況の中、不安で押しつぶされそうになります。二千年前のイエスの弟子たちも不安で押しつぶされそうになる経験をしました。マルコによる福音書 4 章 35 節から 41 節には、弟子たちがイエスの命令によって湖の向こう側に渡ろうとした時に、突然の嵐に襲われ舟が沈みそうになったことが記されています。弟子たちは不安になりましたが、イエスは嵐の中に動じることなく眠っておられました。それを見た弟子たちがイエスを起こすと、主は嵐を静められました。神を信じて歩む中にも不安になることが起こってきますが、何も心配する必要はありません。わたしたちの神は嵐を鎮めることのできる方です。そこで、「嵐を鎮める神」について3つのことを学びます。

1 不安の嵐は突然襲ってきます

(1) 予想を超えた出来事によって不安になります

弟子たちは、イエスの「向こう岸に渡ろう」との言葉に従って湖に出て、舟を漕ぎだしました。(35-36 節)すると突然、嵐が湖に吹きおろし、舟は波をかぶって水浸しなるほどの危険な状態になりました。(37 節) (マタイ 8:24 そのとき、湖に激しい嵐が起こり、舟は波にのまれそうになった。イエスは眠っておられた。) 弟子たちは嵐が襲ってきて、舟が沈みそうになり、不安でいっぱいになりました。わたしたちの信仰生活にも予想を超えた嵐が襲ってきて、心が揺さぶられ不安になることがあります。

(2) 自分の力で対応できない時に不安になります

弟子たちの中には、漁師たちもいましたので湖のこと、舟のこと、嵐のことも知っていたはずでしたが、その経験では全く役に立ちませんでした。わたしたちの周りには、五十年に一度、百年に一度、千年に一度と言われる誰も経験したことのない状況が起こり、今までの経験が役に立たないで不安で押しつぶされそうになります。信仰生活も自分の経験や力で対応できない嵐によって不安になります。

2 神は、「黙れ、静まれ」と言って嵐を鎮めて下さいます

(1) サタンは現実の嵐だけに心を向けさせて不安にさせます

では、弟子たちが不安で押しつぶされそうになっていた時、イエスは何をしておられたのでしょうか？イエスは、嵐の中でも眠っておられました。しかし、弟子たちは、荒れ狂う波を見て、不安になり眠っておられる主を起こしました。(38 節)彼らは、嵐の中で眠っておられる主に苛立ちを覚えて、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言いました。わたしたちも人生の嵐が吹き荒れる時に同じような感情を持ってしまいます。わたしたちは、「先生、わたしたちがどのようになってもかまわないのですか」と思ってしまう。弟子たちと同じように嵐だけに心が向けられる時に不安になり落ち込んでしまいます。サタンは、現実のつらい出来事だけに心を向けてさせて不安にさせます。わたしたちの周りには、不安になる出来事が次々と突然起こってきて、神から引き離そうとします。現実

の出来事だけに心を向けさせ不安にさせるのはサタンの仕業です。

(2) 神は圧倒的な力によって嵐を鎮められます

弟子たちは、イエスはその舟に確かにおられるにも関わらず、嵐を見て不安になりました。弟子たちは、これまで主が行われた数々の奇跡を見、体験していました。しかし、現実の嵐にのみ心が揺さぶられ、信仰が無くなったような状態にまで落ち込み、神の力を忘れてしまいました。しかし、イエスは、弟子たちの不安な声を聞いて、起き上がり、嵐を叱り、湖に、「黙れ、静まれ」と言われました。すると、嵐は止み、すっかり嵐となった。(38節)主の声によって嵐は静まり、すっかり嵐となったのです。イエスは、大自然の嵐を静め、人生の不安という嵐を静めることの出来る方です。サタンは、神の民に不安になる現実の出来事だけに心を向けさせ、信仰を働かせないようにします。だから、イエスは「信じないのか」と言われたのです。わたしたちが神を信じた瞬間から、わたしたちの人生の舟の中に神はいつもおられます。人間的には、状況が悪くなっているように感じる時も神は共におられます。舟が順調に進んでいる時も、嵐の中でも神は共におられます。イエスの約束は、「いつもあなたがたと共にいる。」です。(マタイ 28:20 ・ ・ わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。)サタンは、共にいてくださる神の力を忘れさせようと誘惑し不安にさせます。

3 嵐を鎮めて下さる神に従う

(1) 不安の嵐の時こそ信仰を働かせる

弟子たちは、嵐だけに心が奪われ不安になりました。その時、主は「なぜ怖がるのか、まだ信じないのか」と信仰を問われました。(40節)主は、嵐の中にある時こそ信仰を働かせなさいと言われたのです。信仰の歩みの中に不安の嵐はやってきます。その時こそ信仰を働かせるチャンスです。わたしたちは、嵐を見て不安になるのではなく、嵐を鎮める神を信じて不安を払拭する者です。(ヘブライ 11:1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。)不安の嵐を鎮める神は、わたしたちと共におられます。(マタイ 28章 20節 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。)不安になる時にこそ、信仰を働かせ主から力を受けたいと思います。

(2) 不安の嵐の時こそ神に期待する

わたしたちの神は、不思議を行う方です。天地創造の時、神が「光あれ」と言われると光ができました。(創世記 1:3 神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。)天地を創造された神は、嵐の中で不思議な業を行われます。主は、大自然を支配しておられます。(詩編 107:29-31 主は嵐に働きかけて沈黙させられたので 波はおさまった。彼らは波が静まったので喜び祝い 望みの港に導かれて行った。主に感謝せよ。主は慈しみ深く 人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる。)今までに見たことのない神の業を期待したいと思います。(ヨハネ 11:40 イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。)いつの時代にも突然不安になることがあります。その時にこそ信仰を働かせ、神に期待して、神の不思議な業を見たいと思います。